

〔他2〕 経営管理者等に対する教育政策の理解の普及

2-1 教育改革FD/ICT理事長・学長等会議

本会議は、大学力強化に向けた全学的な改革行動への取り組みについて、主体的・能動的な力の育成、グローバルな視点で世界や地域社会に活躍できる人材の育成の視点から、大学として目指すべき改革行動の方向性を探求することを目的に実施している。

(1) 開催要項の策定

学生が主体性を持って多様な人々と協働する中で問題を発見し解を見出ししていくアクティブ・ラーニングに転換し、大学教育の質的転換を徹底・断行していくには、アクティブ・ラーニングなどによる大学の質的転換のあり方、学修成果の把握と改善取り組みの教学マネジメントの確立の仕方、高大接続に向けた入学者選抜改革の方向性について理解を深め、大学の教育改革を前進させることが不可避であることから、一体的に改革を進める戦略を探求することとして、会議のテーマ「大学教育の質的転換を徹底するための抜本的な改革を考える」とした。

プログラムとしては、「大学教育の質的転換改革を実現する高等教育との一体的改革の方向性」を確認した上で、ICTを活用したアクティブ・ラーニングとして、eラーニングによる反転授業の効果についての理解の共有を図り、その後で「教育の質的転換を断行するための抜本的改革の方向性を考える」をテーマに、教養教育でのアクティブ・ラーニングの導入、教学マネジメント改革の取り組み、高大接続の入学選抜改革の取り組み事例の話題提供を踏まえて全体討議を行うこととして、以下のような開催要項を策定した。

教育改革FD/ICT理事長・学長等会議開催要項

日時：平成27年8月4日（火）

場所：青山学院大学青山キャンパス（総研ビル12階）

東京都渋谷区渋谷4-4-25 TEL: 03-3400-3427

【テーマ】 大学教育の質的転換を徹底するための抜本的な改革を考える

【開催趣旨】

文部科学省は、平成24年度から29年度の「大学改革実行プラン」の中で、社会の変革のエンジンとなる大学の役割が国民に実感できることを目指して、「主体的に学び考え・行動する力を鍛える大学教育の質的転換」を図るとして、各大学に教育改革を通じて生涯学び続け、主体的に考え行動する人材育成の機能強化を要請している。

また、平成26年12月22日の中央教育審議会答申（「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革」）において、大学教育を知識の伝達・注入型の授業から、学生が主体性を持って多様な人々と協働する中で問題を発見し解を見出ししていくアクティブ・ラーニングに転換するとして、特にチームワーク、集団での討論、反転授業や留学・インターンシップなど学外の学修プログラムの実践と、「学生が何を身に付けたか」学修成果の把握と評価方法・方針（アセスメント・ポリシー）、内部質保証への取り組みを推進することが重要であるとされている。

以上の改革は大学教育だけで達成できるものではなく、初等中等教育とりわけ高等学校教育における思考力・判断力・表現力等の能力、主体的な学習に取り組む態度の涵養を目指した高校の教育改革を前提としていることから、高校と大学の教育改革を接続する大学入学者選抜の在り方も含めた取り組みが必要とされている。このため、文部科学

省は、平成27年1月16日に高大接続改革を着実に実行する観点から、今後取り組むべき重点施策と改革スケジュールを明示した「高大接続改革実行プラン」を策定し、「入学者受入方針、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針」の一体的な策定を法令で義務付けるなどにより各大学の取り組みを推進するとしている。

そこで、本会議では大学教育の質的転換を徹底し断行していくために、アクティブ・ラーニングなどによる教育の質的転換、学修成果の把握と改善取り組みの教学マネジメントの確立、高大接続に向けた入学者選抜改革の方向性について理解を深め、大学の教育改革を前進させる戦略を探求することにした。

【プログラム】

13:00 会長挨拶 向殿 政男氏（明治大学顧問）

会場校挨拶 仙波 憲一氏（青山学院大学学長）

13:15 基調講演

「大学教育の質的転換改革を実現する高校教育との一体的改革の方向性」

講師：安西 祐一郎氏（文部科学省顧問、日本学術振興会理事長）

グローバル化、多極化、地方の活性化がすすむ中で求められる力とは、知識・技能と思考力・判断力・表現力を持ち主体的に多様な人々と協働できる「真の学力」の育成だ。知識伝達に偏向した授業から、学生自らが課題を設け、多様な人と議論して解決していく能動的な学びに転換していくには、高校教育と大学教育が役割を明確化し、変わらなければならない。課題は山積しているが、未来に立ち向かう若者のために入学者選抜を含む抜本的な教育改革が急がれる。

14:15 講演

「反転授業導入によるアクティブ・ラーニングの深化と拡充」

講師：森澤 正之氏（山梨大学大学教育センター副センター長）

対話を通じて考える・行動するアクティブ・ラーニングを効果的にすすめていくには、事前・事後学修としての反転授業による知識の定着・確認が不可欠となる。教室外でビデオにより自己学修し、教室で知識の確認を行い、アクティブ・ラーニングで知識の活用・創造等の授業を教員に広めていく課題と方策等を反転授業の経験を踏まえて紹介いただく。

15:00 休憩

15:20 全体討議

「教育の質的転換を断行するための抜本的改革の方向性を考える」

話題提供：「教養教育のカリキュラム・マネジメントによる全学的なアクティブ・ラーニングの展開を目指した改革戦略」

松坂 誠應氏（長崎大学理事：教学担当）

「アクティブ・ラーニングの体系化と教員の教育力養成、学修プロセス・成果の可視化を目指した改革戦略」

稲葉 興己氏（玉川大学教学部部長）

「選抜型から育成型入試への転換による基礎学力の向上と課題発見力・論理的思考を目指した高大接続の改革戦略」

福島 一政氏（追手門学院大学副学長）

質疑・意見交換

17:10 関連情報提供

「平成26年度私立大学情報環境白書」

「学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の促進策」

「平成26年度教育への情報化投資の実態」

18:00 懇親会 本協会挨拶

会場校挨拶 山本 与志春氏（青山学院常務理事）

19:00 閉会

(2) 実施結果

加盟校の84大学、6短期大学から151名が参加した。以下に、会議を通じて主に確認又は理解が進んだ点、アンケート結果を報告する。

[確認できた点]

- ① 「主体性をもって多様な人々と協働して学び、働く力」を得るための教育の機会を持てるようにするには、社会改革としての「教育の転換」が不可避であること。高校教育と大学教育が役割を明確化し、変わらなければならない。
- ② 高校教育改革では、受け身の学習から能動的学習への転換、「高校教育基礎学力テスト(仮称)」を導入し、知識・技能、思考力・判断力・表現力を確保する。大学教育改革では、ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3ポリシーの一体化を制度改正し、受け身教育から能動的学修へ教育の質的転換を図る。そのためには、個別大学における多角的評価による入学者選抜を改善し、大学入学希望者学力評価テスト(仮称)などを組み合わせた「高大接続改革」の展開が急がれる。
- ③ 対話型授業を取り入れた能動的学修を展開していくには、知識の定着・確認を効果的にすすめる反転授業とアクティブ・ラーニングの組み合わせが不可欠。講義部分を動画として事前学修することで、体面授業の場を知識伝達から主体的・協動的な学び合いに転換できる。多くの授業において理解力の低い学生、高い学生のどちらにも効果がある。課題は、どのような事前学修の教材を準備し、体面授業でどのような成果を出させるのか授業設計が大切である。
- ④ アクティブ・ラーニングの全学的な展開には、学長のリーダーシップ発揮とデータに基づいた全学的な議論の実施が必要であり、具体的にすすめていくには核となる教員団の育成が重要である。また、アクティブ・ラーニングを推進していくには、教員の教育力の養成を図る必要があり、全員参加型のワークショップなどFDプログラムの導入、ティーチング・ポートフォリオや学修ポートフォリオ活用による授業の振り返りの仕組み、教員を支える専門組織が不可欠である。
- ⑤ 主体的に学ぶ姿勢と他者の意見を踏まえて自分の考えを主張する態度を身につけた入学者を確保することにより、学士力を備えた人材育成を実現できるようにするため、受験前に学ぶ意欲を引き出し、基礎学力弱点への克服、多面的な考察力の育成を促した上で、試験でアドミッションポリシーに適合した受験者を選抜する高大接続改革の必要性が確認された。

[アンケート結果]

- ① アンケート全員から高大接続改革、反転授業、改革の実践事例について、大変参考になった、有意義であったとの評価であった。
- ② アクティブ・ラーニング、反転授業については実態が定かでなかったこともあり、課題はあるが大学に導入を働きかけたいとの感想も多く寄せられた。以上の意見から、大学改革の取り組みの方向性についてイメージできたと思われる。